

第一章活用事例

小学校五・六年生版「心たくましく」

p.20

「一日の命、万金よりも重く」

中心資料

「その思いを受けついで」（私たちの道徳 小学校五・六年 平成二十六年三月 文部科学省）

【主題名】大切な命

第五学年及び第六学年 3 - (1)

「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」

【ねらい】生命が尊へかけがえのないものであることへの理解を深め、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

《ねらいと対応する道徳的価値について》五・六年生の時期の児童は、人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さ、共に生きることの素晴らしさなどへの理解を深められるようになります。自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念をもてるよう指導することが大切です。



「命」とは、どのようなものだと思いますか。

○「命」について考え、発表させ、生命尊重に関わる導入を行います。

○教師が「その思いを受けついで」を読み聞かせましょう。



「じいちゃんの命があと三か月だと聞いた時、『ぼく』は、どのような気持ちだったでしょうか。」

○小さい頃からぼくをかわいがってくれたじいちゃんの命が、あと三か月だと聞いた時のぼくの悲しい気持ちに気付かせるようにしましょう。



「『ぼく』は、『ぼく』の大切な思いで毎日病院に行ったのだけれど、どうでしょうか。」

○一日でも長く生きてほしいと思っているぼくの気持ちに気付かせるようにしましょう。



「じいちゃんが『ぼく』の手をにぎり返した時、『ぼく』は、どのような思いだったでしょうか。」

○死なないでほしいというぼくの強い思いに気付かせるようにしましょう。

中心発問



「誕生日ののじぶんに書かれた字を見て、『ぼく』は、どのような思いだったでしょうか。」

○のじぶんに込められたじいちゃんの思いを想像させながら、じいちゃんの思いと命をぼくがどのように受けとめているかを考えさせましょう。



《評価》 生命あることに感謝し、自分の生命をいつまでも大切にしようとするぼくの気持ちに共感することができたか。



「自分の生命は、自分だけのものではないと感じたことはありますか。」

○今までの生活の具体的な場面や状況で、実際に感じたことや考えたことを振り返らせるようにしましょう。

○「心たくましく」p.20「一日の命、万金よりも重く」を紹介し、命の大切さを実感させるようにつまじょう。

板書例

命

- 一つしかないもの
- とても大切なもの

その思いを受けついで

じいちゃんの命があと三か月だと聞いた時、「ぼく」は、どのような気持ちだったでしょうか。

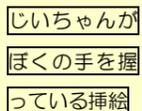
- うそだ。そんなことは信じられない。
- 悲しい。

「ぼく」は、どのような思いで毎日病院に行ったのでしょうか。

- いっしょにいる時間を大切にしたい。
- 一日でも長く生きてほしい。

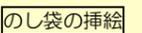
じいちゃんが「ぼく」の手をにぎり返した時、「ぼく」は、どのような思いだったでしょうか。

- じいちゃん、元気出してよ。
- このまま死んじゃいやだよ。



誕生日ののじぶんに書かれた字を見て、「ぼく」は、どのようなことを思ったでしょうか。

- 最期までぼくを大切に思ってくれたんだ。
- ぼくが悲しまないようにこれからも見守ってくれるんだ。
- じいちゃんの思いを忘れずに生きていくよ。



自分の生命は、自分だけのものではないと感じたことはありますか。

- 自分が病気になる時、親が仕事を休んでいっしょに病院に行ったり、看病したりしてくれたことがあった。その時、自分の生命は、自分だけのものではないと感じました。

「一日の命、万金よりも重く」

《評価》

生命が尊へかけがえのないものであることへの理解を深め、自他の生命を尊重しようとする心情を育てることができたか。